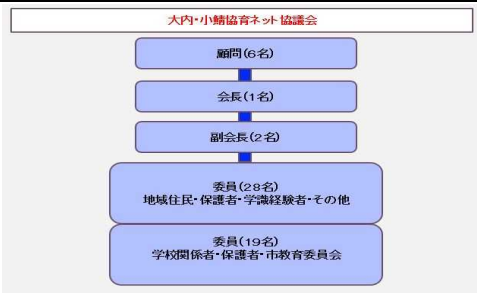


こんな活動です

「あたりまえ10箇条」を基に、「ふるさとを愛し、あたりまえのことがあたりまえにできる子どもたちを、地域ぐるみで育てよう」

山口県山口市		●活動名 大内・小鯖協育ネット			●関係する学校名 山口市立大内中学校 山口市立大内中学校氷上分校 山口市立大内小学校 山口市立大内南小学校 山口市立小鯖小学校		
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	84 学級	のべ児童・生徒数	2177 人
活動区分	学校支援活動 地域未来塾	地域課題解決学習	放課後子供教室	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 —	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成24年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 344人	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	https://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ouchi-i/						
●連絡先	山口市立大内中学校		☎ 083-927-0024				

●体制図



大内中学校区は、周囲を山に囲まれ、大内、小鯖および仁保の一部からなり、防府市に隣接している。校区の広さは、東西約10kmで、ほぼ中央の丘陵に中学校がある。以前は校外の閑静な田園地帯であったが、昭和50年代にベッドタウンとして急速に発展し、現在では約25,000人の人口を抱える地区である。本校区はこれまでも、地域が一体となった「まちづくり」を推進してきており、そのネットワークを基盤とし、これまでの活動をさらに深化・発展させていくため、平成26年度「大内・小鯖協育ネット」として小中連携を核とし、各地域交流センターやまちづくり協議会などの支援団体と協力しながら発足した。その後、公立・私立の幼稚園・保育園を加え、子どもたちが考えた「あたりまえ10箇条」を基に、「ふるさとを愛し、あたりまえのことがあたりまえにできる子どもたちを、地域ぐるみで育てよう」のスローガンを掲げ、15年間の子どもたちの学びや育ちを地域総がかりで支援しながら地域と学校・保護者が連携・協働している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

【特徴的な活動内容】

- 学校の教育活動を様々な面から支援しているが、その主な活動内容は次のとおりである。
- 学習支援：地域の史跡・歴史学習、保育体験学習、定期試験前、長期休業中の学力向上教室（地域未来塾）、道徳・キャリア教育授業、本の読み聞かせ、立志式への協力など。
- 安全支援：登下校時の見守り、地域学習時の見守り、朝のあいさつ運動、学校内外の見守りなど。
- 環境支援：通学路の清掃、学校内の環境整備活動、学校内の環境美化活動（トイレや流し台へ生け花を置く活動）、図書室の本の整理など。
- 地域防災：地域住民と行政との連携による大規模災害に備えた「地域防災キャンプ」の実施にむけた準備。（令和元年度実施予定）
- 地域貢献：地域ボランティア活動への中学生の参加（地域まつりへの参画、鮎の放流活動、トウモロコシの苗植え、幼稚園児・保育園児のためのひまわりの花による迷路づくり、地域住民とタイアップしての募金活動）

【実施に当たっての工夫】

学校が抱える課題や要望は、大内・小鯖協育ネットの会長を通じて、協育ネット協議会委員やコーディネーター（地域学校協働活動推進員）に伝えられ、共有した上で、改善策や支援活動が検討される。そして、迅速に対応する体制が整えられている。また、年3回開催される協育ネット協議会では事前会議を設け、会長同席の下、より綿密な議論が行われるようにしつかりと準備が行われる。毎回の協育ネット協議会には、教育委員会から指導主事、社会教育主事、地域連携教育エリアアドバイザーの出席の下、的確な助言をいただいている。また、3回目の協育ネット協議会では、中学校の生徒会役員、生徒会担当教諭、地域連携担当教諭も交えて、「あたりまえ10箇条」や「あいさつ運動」について、1年間を振り返る意味をもつ熟議も継続して行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

大内・小鯖協育ネットでは、本年度マスコットキャラクター「ひかりひめ」の名称決定、クリアファイル配布に加え、「あたりまえ10箇条」を基にした大内・小鯖地区における幼保小中連携カリキュラム（育ち・学びにおける共通実践目標）を作成し地区内に全戸配布した。

本中学校区は前述のとおり地域全体で子どもたちの15年間の学びや育ちを支援するという意識が強く、小中学校、幼稚園・保育園、各地域交流センター、各支援団体による連携・協働だけでなく、高等学校や事業所の支援も得られるようになってきている。そのことによって、子どもたちには、地域に育てられているという実感が芽生え、地域住民からも、この子どもたちが将来はこの地域を背負っていくのではないかと期待されている。また、地域による学校支援活動の充実が、学校による地域貢献へと結びつき、地域と学校の信頼関係がより一層深まっている。この共通実践目標達成のための取組を具現化し、さらに本活動の深化・発展を図っていきたい。

●その他

活動主体が、大内・小鯖協育ネット協議会委員が中心で、組織を中心とした地域の当事者意識の醸成の拡大が急務である。また、萩山口信用金庫と作成した幼保小中連携プログラム（育ち・学びにおける共通実践目標）の周知をし、地域全体でどのように具体的な取組として進めていくかが課題である。



あいさつ運動強調週間



学力向上教室（地域未来塾）
高校生の参加もスタート